

資料

アメリカにおける「年次教員評価」
書式と実例

三 戸 公

内容

まえがき

資料Ⅰ ○○大学○○学部の年次教員評価に関する書式の一式

資料Ⅱ ××大学××学部の学生による教員評価の集計一覧表の実例

まえがき

ここに提供するものは、アメリカにおける「年次教員評価」に関する資料である。資料Ⅰの書式一式は、中部の某大学のものであり、資料Ⅱの実例は東部のある大学のものである。いずれも、1984年度立教大学より派遣せられた短期在外研究の途次、入手したものである。

当然のことであるが、わたくしも、かねて大学の教員として、大学の教員の在り方に関し、大学の学部運営の在り方、大学の管理運営の在り方に関して若干の関心をもってきている。最近とくに学生の動向に関し憂慮の念をいだいており、学部や大学がそれに適切に対応しているかどうかについていくばくかの疑念をいだいている。

そして、学生および大学の現状を結果せしめているものに、日本社会とりわけ日本の企業の在り方に基因するところが大きいと考えるようになった。その考えの一端を卒直に、『会社ってなんだ』（1984、光文社）において表明した。なお、アカデミックな形を要求せられるなら、『財産の終焉——組織社会の支配構造——』（1982、文真堂）の補論「日本的所有論覚書き——資本の論理と《家》の論理——」、あるいは「日本的経営と《家》」（『立教経済学研究』第35巻第1号）、「日本的経営論序説——家と家族」（『立教経済学研究』第36巻第2号及び第4号）さらには「組織の日本型モデルと欧米型モデル」（浜口恵俊・公文俊平編『日本的集団主義』1982、有斐閣の第5章）などを参照されたい。すなわち、日本とアメリカの企業の在り方の違いが、日本とアメリカの学生の在り方、大学教育そして大学管理の在り方に大きく作用していると

みるのである。

もちろん、本資料はわたくしの問題関心と同じ地点から読まれる必要はない。たとえば単に人事管理研究者が人事管理に関する一資料として参照されても毫も差支えないことなど、断わるまでもあるまい。この資料がいかなるものであるかについては、もともと一言も必要ないものといってよい。

なお、この資料はその一部をエッセイ風にとりあげ市販の雑誌に発表ということも考えたが、学会などで話したところ、是非欲しいと言われる方々が多かったので原文をコピーして差し上げていたが、この形で、一般に供するのが適当であると判断した。

ここに御参考に供する次第である。

資料 I ○○○大学○○学部 年次教員評価書式一式

1983年9月 学科長 (departmental chairman) は、以下の項目をふくむ印刷物をまずととのえる。

1. 各教員の講義目標の記述
2. 学生による評価
3. 設置せられている全授業の概要
4. 学生による評価
5. 同僚による評価
6. 学部長による評価

1983年10月 教員 (faculty member) は、集められた資料について学科長と検討する。両者が一緒になって改善の目標と分野についてとりくむ。その諸点は、可能なかぎり同意を反映すべきであるが、意見の相違のある場合はそのように記述される。

1983年

11月～12月 学科長はこれらの資料を学部長 (dean) に渡し、学部長はそれらについて各教員と討議する。

これらの評価の目的は、実現しうる最高の職務の遂行と成長および改善分野の提案、そしてこれ等をどのように成し遂げるべきかを奨励するためである。これ等の資料は教員によって昇進委員会に提出せられないかぎり、同委員会はこれ等を利用することはできない。

年次教員評価

教員用印刷物

貴殿に配布されていない書式 (forms) があれば、それらを学部長室からお持ち下さるよう、お願いします。

- I 諸目標 (goals)：学部文書の目標の項参残のこと。
- II 学生による評価：機械による採点評価の結果を報告すること。
- III 貴殿の年間授業概要を提出すること。
- IV 年次報告用の書式は、おって配布される。
- V 同僚 (Colleague) による評価*
- VI 学科長用報告書式

* 3種類の書式を提出すること。学部長がこれ等の書類を管理する。それらは各教員とその専門分野が最も近い同僚3名によって記入されるが、毎年違った同僚によってなされる。これらの書類は無記名でなされる。

これ等の書類の目的は、各教員が改善すべき分野を見付け出すことにある。同僚によって昇進を推薦する委員会が組織されるかぎり、各教員は同僚がどのように自分をみているかについて、前もって印象をうることができる。このようにして、昇進を希望する教員は自分がどのようなことについて努力すればよいかを知ることができる。

A 学生意見調査 (student opinion survey)

教員 (instructor)：

科目 (course)：

学期・年度 (Semester & year)：

あなたの手書きのコメントが書かれたこの用紙は、学年末成績評価が提出せられた後にはじめて、担当教員に渡されます。

1. この科目の長所 (strengths) は何ですか?
2. この科目の弱点 (weaknesses) は何ですか?
3. この教員は、この科目をどのように改善したと思いますか?

(学生意見調査)

この書式の目的は、将来の学生のためにこの科目を改善する一助となるように、担当教員に情報を提供することにある。当大学は教員評価の基礎として、他のデータと共にこの調査の結果もまた利用する。あなたの思慮深くかつ卒直な意見を聞かせて下さい。

以下の項目について、最も適当な回答をひとつずつ選んで回答用紙に記入して下さい。もし記述がこの科目にあてはまらなかったり、あなたの回答のために充分な論拠をもっていない場合には、その項目は除いて回答欄は空白のままにしておいて下さい。

評価項目	決 しな てい	め に つ な たい	と き ど き	た い て い	い つ も
1. 十分な授業準備を しているようだ	1	2	3	4	5
2. このクラスで教えるの を楽しんでいたようだ	1	2	3	4	5
3. 友好的で近親感がある	1	2	3	4	5
4. 学生が教材を学習して いるかどうかに関心がある	1	2	3	4	5
5. 興味をそそる質問をし好 奇心を刺激する	1	2	3	4	5
6. 適当な期間内に答案を返 却し、検討する	1	2	3	4	5

7. 学生からの質問を喜んで受ける	1	2	3	4	5
8. 事例を効果的に利用する	1	2	3	4	5
9. 講義および討議を主題に集中しつづける	1	2	3	4	5
10. 教材を適当な速度で利用する	1	2	3	4	5
11. 学生を敬意をもってとり扱う	1	2	3	4	5
12. 教材を明確で理解しやすい方法で説明する	1	2	3	4	5
13. 活力と熱意をもって教える	1	2	3	4	5
14. 教材を複雑すぎもせず単純すぎもしない適当な知的レベルで網羅する	1	2	3	4	5
15. ユーモアを解する心がある	1	2	3	4	5
16. 学生に多くを要求する	1	2	3	4	5
17. 適切かつ教材を網羅した試験をする	1	2	3	4	5
18. 学生を公平に取扱かう	1	2	3	4	5
19. 創造的能力を刺激するよう試みる	1	2	3	4	5
20. 最善をつくすよう学生を動機づける	1	2	3	4	5
21. 助手を効果的に利用する	1	2	3	4	5
22. 時間厳守である	1	2	3	4	5
23. 適当な時間を必要とする宿題を出す	1	2	3	4	5
24. 様々な見解を出したり認めたりする	1	2	3	4	5
25. 忍耐強く親切である。	1	2	3	4	5

次の回答用紙の(1)はい、(2)いいえ、(3)わからないの中から、あなたの意見を1つずつ選んで丸で囲んで下さい。

全般的意見 (general observation)

	は い	いいえ	わからぬ
26. この科目から多くのことを学んだ	1	2	3
27. 科目の目的は学期始めから明確に述べられていた	1	2	3
28. 稀な例外を除いて、この授業はスケジュール通りに行われた	1	2	3
29. 学期始めにこの教員は成績評価システムを周知せしめた	1	2	3
30. 私の知る限りではこの教員は告知された執務時間を守っている	1	2	3
31. 成績や採点される宿題は、私がこの科目における自分の進歩を測定するに足る程しばしばなされた	1	2	3
32. 私はこの教員を他の学生にも推薦したい	1	2	3



以下の記述群について、あなたの回答を回答用紙の適当な番号を1つずつ選んで丸で囲んで下さい。

全体的印象 (overall impression)

一九三

33. 私が当大学で教わったことのある全教員と比較して、この教員は、	1	2	3	4	5
(1) 最低の1人					
(2) 平均以下					
(3) 平均					

- (4) 平均以上
- (5) 最高の1人

学生のバックグラウンド

34. この科目は科の履習計画
の中で必須科目である。
(1)はい (3)いいえ
- | | | | | | | |
|--|---|--|---|--|--|--|
| | 1 | | 3 | | | |
|--|---|--|---|--|--|--|
35. 私の当大学における全成
績の平均評価は
(1) 1.99～以下
(2) 2.00～2.50
(3) 3.00～3.50
(4) 3.50～4.00
- | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|--|---|---|---|---|---|
36. 私のクラス分類は
- | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|--|---|---|---|---|---|
- (1) 1年生 (freshman)
 - (2) 2年生 (sophomore)
 - (3) 3年生 (junior)
 - (4) 4年生 (Senior)
 - (5) 大学院生, 卒業生,
特別学生 (graduate,
Post-grad or Special)
37. これまでの私の成績評価
は, 多分:
(1) 不可 (F: fallure)
または不合格 (NP:
negative Point)
(2) D
(3) C
(4) B
(5) A or p

B 同僚による評価書式 (colleague Appraisal Form)

I この同僚の勤務態度 (work habit) についての私の印象

_____極めて一生懸命, _____満足できる, _____弱い, _____不満足,
コメント:

II この同僚の専門的知識についての私の印象

_____非常に学識がある, _____満足できる, _____弱い, _____不満足,
コメント:

III この同僚の新鮮度 (freshness) についての私の印象

_____最新のものをもっている, _____かなりのものを保持している,
_____20年あるいはそれ以上後れている。
コメント:

IV この同僚の学生との親密さについての私の印象

_____多くの学生が彼を探し回っている, _____満足できる, _____多くの
否定的な評判
コメント:

V この同僚の学生に対しての近づき易さ

_____たやすく会える, _____たいてい会える, _____会うのは難しい
コメント:

IV この同僚の学問的生産性

_____きわめて生産的, _____満足できる, _____低い
コメント:

VI 私が聞いたことがあるこの教員に対する学生の反応は

_____非常に好ましい, _____半分半分, _____好もしくない
コメント:

- VIII この同僚の教育効果についての私の印象は
 _____非常に効果的, _____評判は良いが内実は不十分, _____堅実だが面白くない, _____弱い
 コメント:
- IX この同僚の生産性の質についての私の印象は
 _____非常に充実している (very solid), _____満足できる, _____普通 (popular), _____浅薄 (superficial)
 コメント:
- X この同僚の成長についての私の印象
 _____向上するために一生懸命勉強してきた, _____満足できる, _____弱い, _____いくつかの分野で退歩している特定の領域についての
 コメント:
- XI この同僚の外部的関心についての私の印象
 _____彼の教育効果に役立っている, _____教育にほとんど影響を及ぼしていない, _____減じている, _____彼のエネルギーを過度に消耗している
 特定の関心についてのコメント:
- XII この同僚の精神的成長についての私の印象
 _____熱心に神との密接な関係を求めている, _____満足できる, _____無関心, _____逆行している (regressing)
 コメント:
- XIII この同僚の家庭状況についての私の印象
 _____有能にして感受性強い家庭人である, _____満足できる, _____家族には無関心, _____家族を無視して (neglect) いる
 コメント:
- XIV この同僚の教員および学生の福祉に対する貢献についての私の印象
 _____非常に深くかかわっている, _____喜こんで貢献している, _____無関心, _____ほとんどしない

46 立教経済学研究第38巻4号(1985年)

コメント：

XV この同僚の大学に対する態度についての私の印象

_____極めて支持的, _____忠実であり改善を求めている, _____無関心,
_____否定的

コメント：

XVI 私の同僚のコミュニティ活動におけるかわりについての印象

_____きわめて活潑しかも均衡がとれている, _____活潑さが彼の学問に対
する貢献を減じている, _____無関心, _____関係していない

コメント：

XVII 他の諸機関の学者たちがこの同僚をどのように見ているかについての私の印象

_____1流学者, _____有能な学者, _____将来有望な若い学者, _____よ
そでは知られていない

コメント：

C 学科長による評価 (appraisal)

(この評価は、他の詳細なデータの要約である)

評 価 項 目	期 待 以 上	満 足	普 通	期 待 以 下	不 満 足
I 教育効果					
II 学問的生産性					
III プロフェッショナル・サービス					
IV 個人的目標・目的					
V 精神的境位					
VI 家族関係					
VII 大学への貢献					
VIII コミュニティへの貢献					
IX 他人への関心					
X 全般的観察					

もし学科長がこの印刷資料の中に含まれていない追加意見の提供を求めることを望む場合には、この用紙にそれらを添付すること。

特別な長所：

改善が必要な点：

その他コメント：

署名： _____ 学科長 _____ 教員

日付： _____

以上、翻訳紹介したものは、アメリカの某大学の年次教員評価の書式 (form) の一式である。

この資料を提供して下さった某大学の学部長の話では、この書式は3つの大学の書式を参考にして作製したものであるが、どの大学のものも大同小異である、といってもよいとのことである。また、このような年次教員評価をこのような書式で行なっている大学は、あるいは8割あるいは6割とも言われている。もちろん、このような書式をもって教員評価をしない大学でも、何等かの形で評価を行っていない大学はない、との話であった。

資料Ⅱ ×××大学○○学部の学生による教員評価の資料 一覧表の実例

資料Ⅰは、アメリカ中部のある大学における教員評価に関する書式一式をそのまま示したものであるが、次に掲げるものは東部のある大学における学生による教員の評価結果の集計一覧表 (Summary Sheet) である。

この一覧表を有力な参考資料にして、学生たちは受講科目を選択することになる。教員・授業・教科書にそれぞれ集約せられる形で最高4点満点、最低0点の為に点数評価せられて、全学生に公表せられるとは、何とときびしいことであるか。しかも、集計にいたるまえの完全な資料がほしければ、学生部 (the Student Council Office) と学生相談所 (the Office of Student Advicement) にゆけば利用できるというのだから、おそれ入る。

Spring 1984 Faculty Evaluations
Summary Sheet

Key : 4.0=A 3.0=B 2.0=C 1.0=D 0=F

The complete evaluation is available in the Student Council Office and the Office of Student Advisement.

<u>Section</u>	<u>Instructor</u>	<u>Instructor</u>	<u>Course</u>	<u>Text</u>
C10.0001.01	Ludman	3.11	2.78	2.20
C10.0001.02	Kahn	3.20	2.73	2.07
C10.0001.03	Hong	2.22	2.33	1.21
C10.0001.04	Karan	2.04	2.33	1.76
C10.0001.05	Balachandran	2.06	2.29	2.12
C10.0001.08	Dawidowicz	3.24	2.58	2.15
C10.0005.01	Gardner	3.30	3.16	2.86
C10.0005.02	Zwart	3.01	3.35	3.28
C10.0005.03	Kraft	3.43	3.38	2.72
C10.0005.04	Bruenner	2.68	3.11	3.17
C10.0007.01	Zwart	2.48	3.12	3.29
C10.0007.02	Reid	3.37	3.15	2.93
C10.0007.03	Reid	3.35	3.15	2.70
C10.0007.04	Duksin	3.49	3.16	2.76
C10.0020.01	Khanna	1.44	1.85	.96
C10.0020.02	Khan	3.39	2.74	1.49
C10.0020.03	Tully	2.93	2.61	1.90
⋮				
103名分省略				
⋮				
C55.0002.01	Gardner	2.24	2.76	2.04
C55.0002.02	Hirschman	3.66	3.04	2.27
C55.0002.03	Sandler	2.71	2.72	2.03
C55.0003.01	Hirschman	3.54	3.16	2.89
C55.0003.02	Secunda	3.29	2.99	2.63
C55.0003.03	Poltrack	3.20	2.85	2.25

C 55. 0005. 01	Schenkler	3. 31	2. 98	2. 75
C 55. 0009. 01	Shoemaker	3. 27	2. 60	1. 89
C 55. 0009. 02	Reddy	2. 26	2. 12	1. 50
C 55. 0008. 03	Christian	2. 49	1. 96	. 78
C 55. 0055. 01	Stridsberg	2. 61	2. 15	1. 75
C 55. 0055. 02	Ghosh	3. 75	3. 36	2. 94
C 55. 0064. 01	Douglas	2. 78	2. 81	2. 28
C 55. 0087. 01	Flicker	3. 07	2. 74	2. 44
C 60. 0001. 01	Kaminsky	3. 11	2. 59	2. 00

以上のような学生による教員の評価がなされ、その集計一覧表が公表され、利用せられる背景には、日本と全く違った状況がある。

単位の修得が困難であること、授業料が高いこと等が日本と比較にならない。出席をとられ、予習・復習が厳重に要求され、それなしでは授業についてゆけないこと、中間テストや学期末試験によって履修がしっかりと確かめられ、試験は厳重に採点せられ、遠慮なく悪い点あるいは F=Failure=0 がつけられる。再履修は許されない。

授業は休みたい放題、予習も復習もしない、予想試験問題の模範解答のコピー丸暗記で試験にのぞみ、合格点取得きわめて容易といった日本とは全然状況は違うのである。

また、さきの書式によってもわかるように、学生による評価は試験の前になされ、またどのような成績の学生がどのような評価をなしたかも調べられることになっている。

日本において、このような教員評価制度を導入することの是非は早急に断定することは出来ない。完全に近い終身雇用・年功序列の教職員の状況の中では、教員一人一人の自戒にまつ以外には今のところないというべきか。各人の年間業績一覧が紀要の末尾に付されるのが近時散見せられるようになったり、あるいは大学当局が教員にその年の業績表の提出を求めるといった大学が現われたということ

を聞くようになった昨今ではある。